

広島のカキ・鹿児島のカキ、台湾に輸出 水産卸の広島魚市場

2026/3/13 18:48 | 日本経済新聞 電子版



台湾の外食チェーンである王品集団への輸出が決まった広島県産カキと鹿児島県産ブリ（13日、鹿児島県庁）

水産物卸の広島魚市場（広島市）は13日、広島県産カキと鹿児島県長島町で養殖したブリを、台湾の大手外食チェーンである王品集団に3月末から輸出すると発表した。年間の供給量はむき身・殻付きカキとカキフライが合計40トン、ブリは12万尾を見込む。20日に台中市の王品集団本社で契約を結ぶ予定だ。

広島魚市場の佐々木猛社長らが13日、鹿児島県庁を訪れ、塩田康一知事に輸出が決まったことを報告した。佐々木社長によると、従来も断続的に取引があった王品集団から、日本の高品質な水産物を産地から安定的に調達したいという要望があった。ブリは長島町の東町漁業協同組合がブランド化している鱒王（ぶりおう）を推薦したという。

ブリは東町漁協、カキは広島県漁業協同組合連合会がそれぞれ台湾へ出荷し、広島魚市場が取引の窓口を担う。東町漁協の養殖マダイ「鯛王（たいおう）」など他の日本産品も売り込んでいく。